

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第16号



熊本大学医学部保健学科

目次

同窓会会長あいさつ	1
保健学教育部長あいさつ	2
在校生の寄稿	3
コロナ禍でのアメリカ留学体験	5
コロナ禍での遠隔授業の取り組み	6
安田セツ子奨学助成基金運用のご報告	7
熊本大学卒業生表彰	7
国家試験合格状況	7
令和元年度卒業生の進路状況等について	8
保健学科教員紹介	9
同窓会会則・細則	9
同窓会役員	11
名簿廃止について	11

2021年度保健学科同窓会総会、 特別講演、懇親会のご案内

日時：2021年7月3日（土）（予定）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会
<http://hoken.kuma-u.jp/index.php>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

後輩の教育研究支援にお力添えください。

保健学科・保健学教育部では、教育・研究の発展のために皆様のご支援を必要としています。別冊子「熊本大学基金」払込取扱票の中段にある寄附目的の「個別事業を特定する」にチェックを入れ、カッコ内に（医学部保健学科教育研究支援事業）とご記入いただき、ご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

ご 挨拶

同窓会会長 春 田 昭 一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科 5 期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

まずは、この度の令和 2 年 7 月豪雨に被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今もなお、避難生活をされておられる方々の一刻も早い日常生活を取り戻されることをお祈り申し上げます。

さて、2020年、今年は7月から東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中が活気と希望に満ち溢れ、また、大学でも令和になっての最初の卒業式、そして、令和最初の入学式など華やかな幕開けとなるはずでした。

しかしながら、皆様ご存じの通り1月に新型コロナ肺炎発生、その後の全世界的な流行により雲行きは怪しくなりました。例年、同窓会会長として卒業式の参列、新年度には入学式の参列と学部説明会での同窓会の紹介とあいさつがありますが、3月になり卒業式および入学式の中止の連絡が来ました。世の中を見渡せば、東京オリンピック・パラリンピックの延期、緊急事態宣言などのニュースは皆様の記憶に新しいことでしょう。

卒業式は、卒業証書を得て教育課程すべてを修了したことを認定する式典であり、また、お祝いをする場でもあります。そこで卒業生は感謝を伝え、節目を付ける式典でもあります。今年の卒業生は、その節目の場を失われ、青春の一ページに空白の行ができたことでしょう。そんな中でも、皆さんは新しい職場などで、新たな思いを胸に新しい一步を踏みだされ活躍されることを期待します。

また、大学では入学式も中止となっただけではなく、緊急事態宣言のもとでの大学構内の閉鎖、オンライン授業の開始など戸惑いと不安の中での新年度が始まったわけです。オンライン授業については、検査技術科学専攻の松尾祐一先生が特別寄稿に詳細に説明されておりますので、そちらをご覧くださいと思いますが、事態は一向に終息する気配を見せていません。

そして、毎年7月第一土曜に開催しておりました同窓会総会および懇親会についても、感染拡大防止の観点から、今年度は見送ることにしました。参加を希望されておられました皆様には大変申し訳ありませんでした。併せて5月に大分で予定されておりました九州連合同窓会、11月の大阪での関西連合同窓会も中止、そして、毎年学園祭と同時に開催されておりました11月のホームカミングデーも中止となりました。

そのような状況の中、学生さんたちの生活も気になるところであります。学生さんの中には、アルバイトをすることで学生生活の一助を担っている方も多いと思います。緊急事態宣言の元、営業自粛によりアルバイトの雇用も少なくなり、解除後においても感染のリスクとともにアルバイト収入も期待できない状況です。報道によりますと、ある大学では学生の1割程度が学費、生活費など経済面の不安などから退学を視野に入れているといわれています。熊本大学でもそのような危機に直面した学生さんを救うための基金が設立されております。こちらは全学部の学生さんが対象ですが、保健学科でも保健学科学生さんを対象とした支援を行う基金の準備を進めておられます。同窓会としてもこの基金への寄附を準備しておりますが、同窓会の寄附だけではなく、卒業生の皆様のご支援もお願いします。

昨年度の同窓会会報に令和は「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味がこめられ、希望に満ち溢れた時代であると同時にまずは平和な時代であることを期待と記しておりました。

しかしながら、新型コロナウイルスは、今のところ一向に終息する兆しが見えません。今でこそ検査が十分にできる体制、仕組みはできましたが、この病気の特効薬は今のところありません。今年は「3密をさける」、「ソーシャルディスタンス」、「WITH コロナ」がキーワードとなり、新しい生活様式が求められています。感染リスクの高い医療現場の最前線で働いておられる方々をはじめ、卒業生の皆様におかれましても、健康に留意されご自愛くださいますようお願い申し上げます。

来年には、無事に同窓会総会が開催されることを願うばかりです。

ご挨拶

保健学科長・保健学教育部長 前田ひとみ

熊本大学医学部保健学科同窓会会員の皆様には、常日ごろより保健学科・保健学教育部へのご支援、ご協力を賜り、深く感謝いたしております。今年に入り、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックに加え、7月には各地で未曾有の豪雨による多大なる被害が発生しました。被災されました皆さまには、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

COVID-19は、私たちの将来の生活にも関わる大きな影響をもたらしています。熊本大学でも感染拡大の第一波により、2019年度の卒業式と2020年度の入学式が中止になり、前期の講義・実験・演習の多くはインターネットを使った遠隔授業となりました。これまでと異なる授業方法が求められる中、急遽、大学全体で、Moodle（コンピューターネットワークを使ったe-learning教育システム）やZoom（テレビ電話のように映像と音声を使って、大学外にいる人とのコミュニケーションを可能にするツール）講習会が開催され、授業開始を遅らせて新学期がスタートしました。前期は1日も大学に登校することなく終わってしまった学年もありますし、臨床実習も中止または延期となっています。教員一同、これまでと変わらない学習到達度を確保するための授業の工夫と、これまで以上に手厚い学生への精神面へのサポートに取り組んでいます。

今後の感染状況によっては、これまでの卒業生より現場での体験が少なくなる可能性があり、臨床実習だからこそ学習できる対人関係能力や技術力の育成に支障をきたすことも予想されます。これまで以上に細やかな新人研修に委ねなければならない状況も考えられることから、就職先とのより一層の強力な連携と支援体制の構築を図っていかねばならないと考えています。

暗い話題が多い中ですが、今年3月に一般財団法人 化学及血液療法研究所（化血研）から「医療技術者を養成する機関への協力・支援」として保健学科・保健学教育部に多額の寄附をいただきました。保健学科は歴史ある学科ではありますが、教育施設・設備もかなり年季が入っております。しかし、大学に配分される国からの運営交付金は毎年減額され、新しい機器に買い替える資金も調達できず、これまで学生の教育環境の整備に苦慮してきました。今回、いただいたご寄附で故障して使えなくなっていたX線装置、電気泳動システム、ディープフリーザー等を購入することができました。最新の機器の導入により質の高い実験・研究が可能になっただけでなく、3密を避けた実習・実験も可能となりました。化血研様には深く感謝申し上げます。

現在の大学の実情として、外部資金を獲得しなければ教育・研究が成り立たない厳しい状況が続いています。熊本大学で創設されている『熊本大学基金』（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kikin>）の中に保健学科の教育・研究助成、教育・研究施設の整備を目的とした「医学部保健学科教育研究支援事業」があります。保健学科にはまだまだ古い機器がたくさんあります。後輩の学習環境の充実を図るために、多くの皆様からの温かいご寄附を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。なお、ご寄附いただく際には、必ず事業名を「医学部保健学科教育研究支援事業」とご指定下さい。

最後になりましたが、同窓会の発展と同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

在校生の寄稿

看護の対象は「人」であることを忘れずに

看護学専攻 4年

えぐち さり
江口 咲里

社会が新型コロナウイルス感染に混迷している中、気付けば卒業の年を迎え、大学生活4年間を振り返ると、入学式の様子を思い出すことができるほど非常にあっという間でしたが、充実した日々を送ることができたと思います。

特に印象に残っていることは、3年次の臨床実習において、糖尿病に罹患した患者様を受け持ったことです。実習を進めるにあたり、辛い状況にある対象者と関わる機会が多い看護職者は、身体的状況だけでなく、疾患に対する対象者の受容段階やニーズ、価値観、家族・介護者の考え、経済的状況等も考慮して、その時の状況に合わせた言葉かけやタッチング等、親身になって関わるのが重要であると実感しました。また、この患者様との出会いにより、罹患後の治療・看護と同様に、罹患予防の重要性を痛感し、日々の生活の中で住民の健康を守ることができる保健師を目指す決意を固めることができました。

私にとって、実習をはじめ、苦しい場面で思いを共有し、支え合うことができる友人の存在は非常に大きいものでした。特に4年次は授業や実習形態の変更が重なり、思うように勉強等を進めることができず、不安が募り、逃げ出したくなる時もありましたが、いつも励ましてくれた友人がいたからこそ、乗り越えることができました。

今後保健師として働いていく中で、ただ知識や技術を押し付けるのではなく、対象は「人」であることを忘れずに、大学で学んだことを活かして、実践と学びを大切に成長していきたいと思っています。

大学生活を振り返って

検査技術科学専攻 4年

たがやま げんき
高山 元揮

大学生活を振り返ってみると、この4年間は私にとって本当に有意義なものになりました。親元を離れ一人暮らしを始め、勉強、部活、バイト、そして遊びと様々なことに力を注ぎ、様々な職業の方々と出会い、学業だけでなく人との関わり合いや社会人としての礼儀・マナーなど多くのことを経験し学ぶことができました。

そのなかでも4年次の病院見学実習は多くのことを学ばせていただき、とても大きい体験でした。今年は、新型コロナウイルスの影響により病院実習ができず、1日だけの見学実習でしたが、迅速で正確な標本作成や診断など実際の臨床現場を体感することができ、また技師さんが常に高い知識や技術を身につけるための努力を怠らず、責任感と誇りをもって仕事をされていることをお聞きし、刺激を受け今後の学習に取り組むうえでのモチベーションとなりました。この4年間の学習を通して私は、大学卒業後は大学院に進学し、更に専門知識や技術を深め、研究活動により様々な観点から考察できる能力、問題解決能力を身につけ、将来患者さんの立場に立ち付加価値の高い結果を報告できる臨床検査技師を目指したいと考えています。今後も多くのことを吸収し臨床検査技師として医療に貢献できるように精進したいと思います。

大学生生活を振り返って

放射線技術科学専攻 4年

おのうえ ふみや
尾上 迪也

熊本大学に入学してからの日々は、今となって振り返ってみると学業やサークル活動、アルバイトなど多くの学びや人々との出会いがあり、充実した大学生活を送ることができたと思います。

入学当初は高校との違いや覚えることの多さに戸惑いを覚えたのですが、わからない点は友人と話し合い解決することで理解を深めこの4年間学業に励むことができました。

特に4年次の臨床実習では実際に診療放射線技師の業務を目にし、3年間学んできたことがどのように活用されているかを再確認することができ、座学だけではあまりイメージがつかなかった知識に対する理解を深めることができました。

また実際に働いている技師の方々を見て、大学の講義だけでは学ぶことができない患者に対する接遇の大切さを知ることができました。この臨床実習は検査中の声掛けやコミュニケーションの取り方を患者ごとに変えることで、放射線を利用した検査に対する不安を少しでも払拭し負担を軽減できるような接遇を身に付ける良い機会となりました。

卒業研究では自分の研究テーマに関する論文を多く読み、講義ではあまり触れられないより専門性の高い情報を知ることができ、また研究の進捗報告では研究結果に対していろんな視野からその原因を考察する方法を担当の先生方に指導していただき、良い経験を積むことができました。

この4年間お世話になった先生方および臨床実習で多くのことを教えていただいた診療放射線技師の皆様に感謝し、これまで学んだ知識や技術、考え方をもとに今後も自身の能力をさらに伸ばすことができるよう努力していきたいと思っています。

大学院生活について

保健学教育部博士前期看護学コース・看護学分野2年

くどう まゆか
工藤 万由佳

私は2019年度から、看護師として勤務しながら熊本大学大学院保健学教育部博士前期に通っています。大学院に入ろうと思った理由は、看護の質を向上することができる看護研究について深く学びたいと思ったことと、学生時代に温かく支えて下さり導いて下さった先生方の影響で、教育に興味を抱き、教育についても深く学びたいなと思ったからです。

現在は、看護学生さんや新人看護師さんが、少しでも自分に自信を持って看護を提供できるようになるための研究を行いたいと思い、勉学に励んでいます。働きながらの学生生活は非常に大変なこともあります。先生方の非常にわかりやすく内容の深い講義はとても楽しく興味深いものでありますし、先輩方や同級生の皆様とのディスカッションによって、新たな学びを得られることは非常に自分のプラスになっていると思います。

私は発言することや発表することが非常に苦手だったのですが、大学院に入ってから、少しずつその苦手を克服することが出来てきているように思います。大学院でしか得られない貴重な体験を、自分の糧と出来るように努力しているところです。しかし体調管理も必要ですので、時々息抜きの時間を設けながら頑張っています。メリハリをつけることで自分の時間を作りながら、楽しい学生生活を送っています。

コロナ禍でのアメリカ留学体験

医療技術科学分野 生体情報解析学講座 梶原 隆太郎
(保健学科検査技術科学専攻2期)



2020年2月から、アメリカはニューヨーク（NY）州バッファローにありますロズウェルパーク癌センターで研究留学をしております梶原隆太郎です。バッファロー市はニューヨーク市に次いで2番目に大きいNY州の都市で、彼の有名なナイアガラの滝があります。また、留学先のロズウェルパーク癌センターは世界で最も古い総合癌治療センターで、細胞培養に用いるRPMI培地（Roswell Park Memorial Instituteの略）、抗がん剤の5-フルオロウラシル（5-FU）、そして前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSA（Prostate Specific Antigen）を開発したことで知られる世界的にも有名な医療および研究機関です。私の所属する免疫療法部門では基礎研究だけではなく、患者さん由来のT細胞を用いた養子免疫療法など多くの臨床研究、治験も施行されています。現在、私自身は、免疫腫瘍学の分野にて腫瘍特異的変異抗原（ネオアンチゲン）ワクチン療法、リプログラミングやゲノム編集技術を用いた次世代免疫細胞の開発と臨床応用を目指した研究を行っており、iPS細胞や腫瘍細胞、マウスモデルに、フローサイトメーターや次世代シーケンサーなどを用いて文字通り昼夜を問わず実験に取り組んでおります。

と、難しい研究の話はこのくらいにして、私の住むNY州での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を取り巻く状況についてお話ししたいと思います。現在7月の時点で米国の感染者は累計400万人を突破しており、世界全体（1,543万人）の感染者の4分の1以上が米国に

集中しています。今となっては世界最大のコロナ大国となっている米国ですが、私が渡米した今年2月末時点では、米国での感染者はほとんどおらず（当時全米あわせて15名しか感染者はいなかった）、むしろ日本を含むアジアが流行地となっておりました。ところが、3月に入り、NY州では、武漢からの帰国者の感染が複数確認され、その人物と接触のあった人の中で感染が広まり、急速に感染数が増え始め、3月末までの1か月足らずで感染者数がNY州だけで約7千人、死者数は200人以上となりました。すぐさまクオモNY州知事から州内の全市民に対して外出禁止令が出され、市民は食材の買い出し等不可欠な場合を除き自宅待機し、食料品店やガソリンスタンド、病院、警察等、生活に不可欠な業種を除くすべての労働者に在宅勤務が義務付けられていました。渡米2週間もしないうちに私の留学先のLabも閉鎖となり、米国での行政事項の決定のスピード感に驚かされました。Labが閉鎖となってからは、当然のように実験は中止となり、私のように滞在期限のある研究者にとっては正直、かなりの痛手となりました。また、留学先のロズウェルパーク癌センターはNY州西部で最も大きな病院であるため、感染拡大後はすぐさまCOVID-19の拠点医療施設となり、クオモNY州知事も何度もこの施設を訪れ、行政と医療施設が一丸となって感染拡大阻止に尽力していました。その甲斐あって、最大のコロナ震源地であったNY州は感染の抑え込みに一定の成果を上げ、現在は段階的に経済活動を再開できるまでに回復しつつあ



実験風景



ロズウェルパーク癌センターの風景

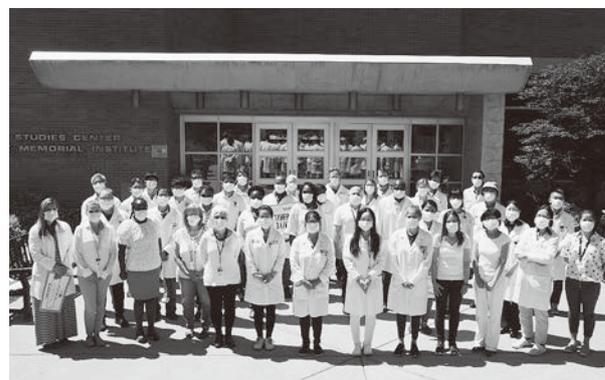


ロズウェルパーク癌センターにおけるクオモ知事のCOVID-19対策演説

ります。とは言っても、アメリカ全土としては依然、南部や西部の州を中心に感染者の増加に歯止めがかからない状態で、依然多くの規制を続けざるを得なくなっており、感染の抑止と経済活動の両立の難しさが浮き彫りになっています。このためNY州では、予定ではすでに始まっているはずの飲食店の屋内での営業が許可されないなど、経済活動再開の最終段階を迎えても多くの規制が残ったままです。こうした状況に加え（NY州の外の州からの）感染再拡大のリスクも高まっており、世界の大都市ニューヨークは難しい対応を迫られています。

最後に、今回、熊本大学のman power不足の中、さらにCOVID-19によるイレギュラーな日程を強いられている苦しい中、このような貴重な機会を与えていただいた保健学科の諸先生方をはじめ、大学事務、同窓会の役

員の方々に対する感謝の気持ちを忘れず、残り期間を精一杯頑張りたいと思います。



免疫療法部門、集合写真（最後列左から1番目）

コロナ禍での遠隔授業の取り組み

医療技術科学分野 生体情報解析学講座 松尾 祐一
（保健学科検査技術科学専攻2期）

COVID-19の世界的流行とともに、私たちの日常生活も大きく様変わりした。日常では、3密を避ける等の新たな行動様式が求められ、街中でも多くの人々がマスクを着用し、日常の景色が大きく変わった。そして、大学教育では、特定の場所に学生が集い講義を行う「対面授業」から、不特定の場所から学生がインターネットに接続した機器を用いて講義を視聴する「遠隔授業」への転換が求められ、保健学科でも大部分の講義が遠隔授業で行われている。大部分の教員にとって、遠隔授業は初めての試みであり、ここでは私自身の遠隔授業の取り組みについて紹介させて頂く。

遠隔授業は、ウェブ会議ツールを用いて学生が講義をリアルタイムで受講する方法と、事前に準備した講義等を大学のeラーニングシステムを介して、学生がオンデマンドで視聴する方法など、様々な方法で行われている。私は、ウェブ会議ツールを用いた遠隔授業を行った。学生はインターネットに接続したパソコン、タブレット、スマートフォンから、ライブ配信される講義を視聴し、教員と学生との双方向性が保てるというメリットがある。講義を行う立場である私自身は、パソコンに向かって語り続けることとなり、視聴している学生の反応を感じたいという不自由さがあったが、講義終了後に学生から質問を得ることができ、学生とコミュニケーションを取ることができた。学生との双方向性を得ることができたという点では、ウェブ会議システムを用いた

遠隔授業は有効であると感じている。一方、実際に学生自身が手を動かす必要がある実習は、遠隔授業で代替することは非常に困難である。そのため、学生を複数の少人数のグループに分けることで、3密を避けるなどの感染防止対策を行いながら、実習を進めている。このように、コロナ禍の大学教育の現場では、学生への感染対策と学習効果の両立を鑑みて教育を行っており、この状況はしばらく続くと考えられる。現在のコロナ禍において、従来の様式の対面授業を行うことが困難な状況となり、講義の在り方が大きく変化したことは、間違いのない事実である。歴史上、ひとつの教室に学生が集い、講義を行うことが長い間行われたきたが、多くの講義が遠隔講義となり、大学教育において大きな節目を迎えているのかもしれない。

大学において、学生は知識を得るだけでなく、多くの友人から刺激を受け、自身の価値観、及び将来のキャリア形成についての考えを深め、研究活動を通して長い間付き合うこととなる研究パートナーを得ることができる。このような機会は、人とコミュニケーションを取ることが前提にあるが、多くの人との接触を取ることが難しいコロナ禍では、大学に集まることができないために、多くの学生が貴重な機会を失っているように感じる。従来の学生が多く集まる大学の風景をとりもどすためにも、新型コロナウイルスの1日もはやい終息を願うばかりである。

安田セツ子奨学助成基金運用のご報告

平成31年度／令和元年度分の奨学助成は、令和2年1月～4月に応募案内を致しました。同窓会役員で審議しました結果、3名の保健学科学生（看護学専攻2年生1名、放射線技術科学専攻2年生1名、検査技術科学専攻2年生1名）に助成させていただきました。基金の原資をご寄附くださいました安田様ならびにご家族へ厚く御礼申し上げますとともに、今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。

熊本大学卒業生表彰

令和2年度熊本大学卒業生表彰の受賞者が決まりました。この表彰は、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生に対し、学長が行うもので、今回は9回目になります。

本年度、保健学科同窓会より以下の方が表彰されました。

福島 昇 様（熊本大学医学部附属診療放射線技師学校 昭和49年卒業）

受賞理由：国立大学の病院において経営改善に貢献、診療放射線技師の職能団体において地域社会活動、啓蒙活動等に尽力

国家試験合格状況

令和2年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格 率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格 率 (%) (うち新卒者)
看護師	27	69	69	100.0	62,154	55,585	89.4 (94.9)
	28	66	66	100.0	62,534	55,367	88.5 (94.3)
	29	67	67	100.0	64,488	58,682	91.0 (96.3)
	30	70	69	98.6	63,603	56,767	89.3 (94.7)
	R元	68	67	98.5	65,569	58,514	89.2 (94.7)
保健師	27	28	28	100.0	8,799	7,901	89.8 (92.6)
	28	19	19	100.0	7,590	7,172	90.8 (94.5)
	29	20	20	100.0	8,191	6,666	81.4 (85.6)
	30	20	20	100.0	8,376	6,852	81.8 (88.1)
	R元	20	20	100.0	8,233	7,537	91.5 (96.3)
助産師	27	16	16	100.0	2,008	2,003	99.8 (99.8)
	28	13	12	92.3	2,053	1,909	93.0 (93.2)
	29	11	11	100.0	2,230	2,201	98.7 (99.4)
	30	10	10	100.0	2,105	2,096	99.6 (99.9)
	R元	9	9	100.0	2,105	2,093	99.4 (99.5)
診療放射線技師	27	37	34	91.9	3,016	2,377	78.8 (90.9)
	28	35	34	97.1	2,939	2,511	85.4 (96.0)
	29	34	31	91.2	2,971	2,237	75.3 (84.8)
	30	41	41	100.0	3,202	2,537	79.2 (89.4)
	R元	36	26	72.2	2,914	2,397	82.3 (92.2)
臨床検査技師	27	47	43	91.5	4,400	3,363	76.4 (87.4)
	28	34	31	91.2	4,739	3,729	78.7 (89.9)
	29	37	34	91.9	4,829	3,828	79.3 (90.5)
	30	39	36	92.3	4,817	3,620	75.2 (86.5)
	R元	40	33	82.5	4,854	3,472	71.5 (83.1)

令和元年度卒業生の進路状況等について

R2.3.26

看護学専攻（卒業生68名）		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	12
熊本赤十字病院	熊本県	6
医療法人社団愛育会 福田病院	熊本県	3
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	4
熊本中央病院	熊本県	1
熊本県庁	熊本県	1
熊本市役所	熊本県	6
慈恵病院	熊本県	1
御幸病院	熊本県	1
国立病院機構九州グループ	福岡県	1
九州大学病院	福岡県	9
福岡大学病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	2
福岡市役所	福岡県	1
粕屋町役場	福岡県	1
福岡県庁	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
宮崎大学医学部付属病院	宮崎県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	2
鹿児島市役所	鹿児島県	1
薩摩川内市役所	鹿児島県	1
曾於市社会福祉協議会	鹿児島県	1
長崎大学病院	長崎県	1
慈恵医科大学病院	東京都	1
板橋中央総合病院	東京都	1
順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京都	1
日本医科大学病院	東京都	1
横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県	1
医療法人社団 東光会 戸田中央産院	埼玉県	1
就職小計		66
(進学)		
熊本大学養護教諭特別科	熊本県	1
大阪大学大学院医学系研究科	大阪府	1
進学小計		2

放射線技術科学専攻（卒業生36名）		
(就職)		
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本地域医療センター	熊本県	1
熊本市市民病院	熊本県	1
玉名中央病院	熊本県	1
井上整形外科病院	熊本県	1
小倉記念病院	福岡県	1
北九州市立病院機構	福岡県	3
飯塚病院	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
佐世保共済病院	長崎県	1
博愛会相良病院	鹿児島県	1
米盛病院	鹿児島県	1
公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	大阪府	2
大阪府立病院機構	大阪府	1
就職小計		18
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	13
その他（進学準備等）		5
進学小計		18

検査技術科学専攻（卒業生40名）		
(就職)		
医療法人社団仁誠会クリニック	熊本県	1
独立行政法人地域医療推進機構九州ブロック	熊本県	1
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	1
熊本中央病院	熊本県	1
高野病院	熊本県	1
ひがし成人・循環器内科クリニック	熊本県	1
公益財団法人 熊本県総合保健センター	熊本県	1
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	1
帯山中央病院	熊本県	1
聖マリア病院	福岡県	1
福岡山王病院	福岡県	1
原三信病院	福岡県	2
飯塚病院	福岡県	1
飯塚市立病院	福岡県	1
福岡市市民病院	福岡県	1
北九州医療センター	福岡県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
宮崎江南病院	宮崎県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
潤和会記念病院	宮崎県	1
下関市立市民病院	山口県	1
山口県済生会下関総合病院	山口県	1
長崎大学病院	長崎県	1
LSIメディエンス	東京都	2
神戸市市民病院機構	兵庫県	1
九州日立システムズ	福岡県	1
未定（資格試験受検準備）		1
就職小計		29
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	7
大阪大学大学院	大阪府	1
その他（進学準備等）		3
進学小計		11

保健学科教員紹介

(令和2年9月現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学・看護教育学講座】

教授：前田ひとみ
准教授：松本 智晴
講師：永田まなみ
助教：那須 信

【在宅・老年看護学講座】

教授：青石 恵子
准教授：安武 綾
助教：福重 真美 田中 清香

【臨床看護学講座】

教授：河野 宏明 國府 浩子 三笥 里香
准教授：柗中智恵子
助教：樋口 有紀 福山 美季

【女性健康科学・小児看護学講座】

教授：田代 浩徳
准教授：坂梨 京子 秋月 百合
講師：寺岡 祥子 生田まちよ
助教：島田久仁子 吉田 佳代

【公衆衛生看護学講座】

教授：大河内彩子
助教：金森 弓枝

【大学病院からの派遣教員】

講師：酒田真由美

◆放射線技術科学専攻

【医用画像科学講座】

教授：白石 順二 富口 静二 北島 美香
准教授：内山 良一 米田 哲也 藤原 康博
助教：辻田 直子

【医用放射線科学講座】

教授：荒木不次男 伊藤 茂樹 船間 芳憲
村上 龍次
准教授：坂本 史
助教：大野 剛

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林 光念 柳沼 裕二
講師：伊藤 雅浩
助教：橋本 弘司 田崎 雅義

【生体情報解析学講座】

教授：大坪 和明 大森 久光 奥宮 敏可
畑 裕之
助教：梶原隆太郎 森 信子 松尾 祐一



熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会 員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。

一 正会員

- イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は学籍した者
- ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は学籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は学籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は学籍した者
- ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は学籍した者並びに在学生
- ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は学籍した者および在学生

二 特別会員

- イ 本学科教員
- ロ 本学科及び前項の学校の元教員
- ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。

第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

第10条 本会に次の役員を置く。

- | | | |
|---|-----|-----------------------------|
| 一 | 会 長 | 1名 |
| 二 | 副会長 | 2名 |
| 三 | 理 事 | 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。 |
| 四 | 幹 事 | 7名 |
| 五 | 会 計 | 2名 |
| 六 | 監 事 | 2名 |

第11条 役員は次の職務を行う。

- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
- 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
- 四 幹事は、本会の実務に当たる。
- 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
- 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。

第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。

- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
- 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
- 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
- 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
- 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
- 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。

第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。

第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。

- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会 議

第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。

- 一 事業及び決算報告
- 二 事業計画及び予算
- 三 会則の制定及び改廃

四 役員を選出

五 顧問の推挙

六 その他の必要と認める事項

2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。

第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。

第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。

第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。

第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。

第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会 計

第28条 本会の経理は、会費及び寄附金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。

2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。

3 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。

4 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。

5 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。

6 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。

7 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。

8 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

令和2年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

- 名誉会長：前田ひとみ（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）
 会長：春田 昭一（済生会熊本病院）
 副会長：羽手村昌宏（熊本大学病院）
 溝上 幸洋（くまもと森都総合病院）
 東京連合同窓会幹事：松下 洋一（株式会社バイオテック）
 九州連合同窓会幹事：春田 昭一（済生会熊本病院）
 松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）
- 理事：
 （看護）山本 治美（熊本大学病院）
 田中紀美子（元九州看護福祉大学）
 小藺真知子（熊本保健科学大学言語聴覚学専攻）
 片平 起句（医療法人社団愛育会福田病院）
 宮里 邦子（元九州看護福祉大学）
 福重 真美（熊本大学医学部保健学科）
 （放射）荒木不次男（熊本大学医学部保健学科）
 有村 大喜（熊本大学医学部附属病院）
 大野 剛（熊本大学医学部保健学科）
 （検査）増永 純夫（元熊本中央病院検査科病理研究科）
 前田 浩（元熊本市民病院中央検査部）
 片淵 達也（熊本大学病院）
- 幹事：
 （看護）富永 圭亮（熊本大学病院）
 島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）
 （放射）辻田 直子（熊本大学医学部保健学科）
 （検査）田崎 雅義（熊本大学医学部保健学科）
 松尾 祐一（熊本大学医学部保健学科）
 高島 裕子（元熊本大学病院医療技術部）
- 会計：松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）
 吉田 佳代（熊本大学医学部保健学科）
- 監事：益田美奈子（鶴田病院）
 橋田 昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）

同窓会名簿廃止について

医学部保健学科同窓会では、保健学科設立時から5年ごとに同窓会の名簿を発刊してまいりました。前回は平成28年（2016年）に発刊しており、今回は来年令和3年（2021年）に発刊予定となっております。

卒業生の皆様の中には、同窓会名簿がお手元に届くことを楽しみされておられる方もいらっしゃると思います。しかしながら、近年は個人情報保護法の観点から同窓会の名簿の管理も厳しくなってきたこと、名簿に個人情報を掲載希望されない方が増えてきたこと、一部で同窓会名簿が名簿業者に流れて不正に使用されていることなどから、一部の皆様から同窓会名簿作成は必要ないのではないかというご意見もいただいております。

同窓会としましては、名簿発刊にあたり、購入単価を上げないための広告をあつめ、多数の名簿購入者を募り、さらに名簿購入とは別に、卒業生や退官されました元教員の皆様方から多くの賛助金（寄附金）をいただいております。広告収入、賛助金でも不足する場合、同窓会経費として名簿作成を行うことも考慮しなくてはなりません。

このような背景から、同窓会役員会では、次回からの名簿発刊について廃止をする方向で検討しております。名簿発刊は同窓会としての一事業でございますので、廃止するにあたり、同窓会総会で正式に決定したいと考えております。

次年度の同窓会総会（令和3年7月3日土曜日）までに、同窓会会員の皆様のご意見をいただきたいと思っております。

名簿廃止についてのご意見は下記の住所までご連絡ください。
 ○熊本大学医学部保健学科同窓会事務局宛：

〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4-24-1

保健学科同窓会 会長 春田 昭一

編集後記

今年は新型コロナウイルスの影響で本学の卒業式や入学式が中止となりました。卒業生は新型コロナ感染対策を行いながらの新社会人生活が、新入生は新型コロナ感染予防の為に自宅でオンライン授業を受ける大学生生活が始まりました。例年開催される同窓会総会、特別公演は中止となりましたので、今回の同窓会会報誌はコロナ禍でのアメリカ留学体験記や大学でのオンライン授業の取り組みに関する内容が記載されています。

今年の熊本は、7月に豪雨被害を受け、異例の暑さの中、復興作業と過去最強クラスといわれた台風を体験しました。季節が変わり今からは新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時に流行することに備えていかなければなりません。

このような時だからこそ「負けんばい！熊本」同窓生の皆さま、皆で協力し乗り越えて参りましょう。

（保健学科同窓会役員：松尾祐一、辻田直子、島田久仁子）



看護職員募集 熊本大学病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
 “私たちと一緒に働きましょう”



私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と活き活き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊本大病院で看護をしてみませんか。
 詳細はホームページをご覧ください。